



特集
土木遺産Ⅱ
時を超える技術者のこころ スペイン

Special Features
Engineering's Heritage Ⅱ
Engineer's Feeling Surpassing the Time Spain

Park Güell グエル公園

奇抜なデザインに隠された自然との調和と機能美

世界中にある多様な公園の中でも、バルセロナにあるグエル公園はとりわけ異彩を放っている。

今でいう高級住宅団地として整備されながら、公園として陽の目を浴びているその生い立ち。一見奇抜にしか見えないデザインに隠された自然の摂理を活かした合



理的な設計思想。古き良き姿を生かしながら、現代のニーズに合わせて柔軟に使いやすさを改善する管理の姿勢など、この公園は多くの示唆を与えてくれる。

この公園の建設当時、バルセロナには対米貿易で巨万の富を築いた事業家が多く住み、その資金によってカタルーニャ・ルネサンスと呼ばれる文芸復興運動が展開されていた。その流れは建築においても同様であり、「モデルニスモ」と呼ばれるカタルーニャ地方独自の新しい建築様式を生み出している。

グエル公園はこうした時代を生きた建築家の一人であるアントニオ・ガウディ(1852-1926)によって建設されたものである。バルセロナにはグエル公園以外にも、グエル邸、グエル別邸、カサ・ミラ、カサ・パトリヨ、カサ・カルベなど多くのガウディがデザインした建築物が残されている。

1—中座したガーデン・シティ

グエル公園の建設は、1895年にスペイン貴族エウセ

ビオ・グエル伯爵(1846-1918)がバルセロナ郊外にあった15haの土地をもつ1軒の農家を購入したことに始まる。1902年、彼はガウディとともに、この地に60軒の邸宅をもつ英国風のガーデン・シティの建設に着手した。

大規模な地形の変更を避け、また、椰子などこの地特有の植生を活かして設計されたガーデン・シティであったが、分譲されたのは現存するトリアス邸、ガウディ自身が購入したパイロットハウス、農家を改築したグエル氏の邸宅のわずか3軒のみであり、このプロジェクトは住宅開発としては失敗に終わった。原因はグエル氏が決めた建ぺい率16%とした建築条件が厳しかったことや、同時期に旧市街地の外側で整備が始まった拡張市街地の人気が高かったことなどにあると言われている。

その後、1922年にバルセロナ市に譲渡され、市民の憩いの場となる公園として開放された。

2—奇抜なデザインに隠された機能性

ガウディは、自然の地形をなるべく活かし、大規模な造成を避けるため、4つの高架橋により高さの異なる宅地を連絡する計画を考案した。

各々の橋の表情は異なるが、地中海のシンボルである椰子をモチーフにしたアーチ構造で、橋上が車路、橋の下が遊歩道になっている。斜めに設置された柱には、力学的にも視覚的にも安定さを感じることができる。ゴツゴツした外観など奇抜なデザインが着目されるこれらの橋梁を、ガウディは当時先駆的ともいえたプレハブ工法を採用することにより、たった2年で構築した。

正門前の階段の途中には、ギリシャ神話に登場する地下水の守護神ピュトンに模したといわれるトカゲの噴水がある。グエル公園のシンボリックな存在であると同時に、1万2千リットルもの容量を持つ地下の貯水タンクからの水の吐き出し口となっている。

階段の上には住民のためのマーケットとして計画された「百柱の間」(実際は88本)がある。貯水タンクはこの下に設けられており、背後の丘陵地から湧き出る地下水やテラスに降った雨水が壁の裏や柱の中を伝わり、効率的に集められている。また、「百柱の間」の柱上の中央広



場には、防水と装飾を兼ねる色とりどりの破碎タイルが貼られたベンチが囲むように設けられている。バルセロナの市街地を見下ろすテラスは、今日も多くの観光客の憩いの場となっている。

ガウディが家族と住んでいた家は、現在はガウディ博物館として活用されており、彼がデザインした家具等が展示されている。また、グエル氏の私邸は、小学校として活用されている。

3—愛され続ける公園

住宅開発としては失敗であったが、当事者であるガウディもグエル氏もこの失敗を気にはしてなかったようである。1906年にガウディが移り住んだのとはほぼ同時に、グエル氏もこの地に移り住み、散歩などを通じて親密な関係を築いたといわれている。

グエル公園は、1984年にはユネスコの世界遺産に登録された。市では傷の激しかった公園に対して、大規模な修復工事を行った。

グエル公園には、現在、年間約400万人の観光客が訪れている。この公園は今後も末永く愛され、守られていくことであろう。

(取材協力) 田中裕也氏

- 写真1[前頁上]—観光客で溢れるメインアプローチ
- 写真2[前頁左下]—中央広場を取り囲む多彩な破碎タイルのベンチ
- 写真3[右上]—波をモチーフとした散歩道の列柱
- 写真4[左下]—椰子をモチーフとした高架(上には本物の椰子の木が植えられている)
- 写真5[右下]—公園のシンボリックな存在であるトカゲの噴水

(写真: 4、米岡 威 5、山田耕治 他、筆者)